



第 559 号

学校だより

10月号

横浜市立東本郷小学校

令和5年9月28日

ひとにやさしくありがとうの^{こころ}で がんばる^{さいご}がんばる^{さいご}最後まで 本気で^{ほんま}取り組む^{とく}ひが^こほんの子

幸せな子ども時代を過ごせる学校に

学校長 ^{どうごし}堂腰 ^{やすひろ}康博

夏以降、新型コロナウイルスの第9波に入った可能性が指摘され、感染の拡大が心配されていましたが季節性インフルエンザも加わり、本校では多くのクラスで学級閉鎖が続いてしまいました。換気や手洗い、マスク着用を推奨し大きな声で話さないようにする等、感染対策を呼びかけることで流行期の峠を越えることができましたが、みなさまには突然の学級閉鎖措置の連絡を受け、仕事や預け先の調整にご苦労されたことと思います。ご協力、本当にありがとうございました。

この期間、わたしは教室を回って子どもたちに声をかけながら、出席の状況や体調を観察するのが日課になりました。ある週のこと、学年で1クラスだけ登校できている1年3組の教室を覗くと元気な子どもたちが朝の会をしていたので、タイミングを見計らって質問をしてみました。

「1組さんも、2組さんも学級閉鎖になったから、3組さんもお休みの方がいいですか？」すると、子どもたちはみなポカーンとしています。質問を替えて「今日も学校に来られてうれしい人はいますか？」と訊くと、サッとまっすぐに全員の手が挙がり、「だって学校大好きだもん！」という答えを返してくれました。きらきらの笑顔に出会い、うれしくてたまりませんでした。

こんなこともありました。台風13号が接近した9月8日（金）の朝、安全を優先して登校を見合わせるご家庭が多くいらっしゃる中、いつも通りに登校する子どもたちの姿がありました。開門時刻を早め、ずぶ濡れになった子どもたちを昇降口で迎えながらみんなに声をかけました。

「こんなすごい雨風の中、よく来てくれた。たいへんだったよね。安全に来られてえらいぞ！」すると、4年生の子がわたしに向かってこう言ってくれました。「だって学校大好きだもん！」

もう「ありがとうおー!!」の言葉しか、子どもたちに返すことができませんでした。

現在、学校教育の在り方は転換期にあります。わたしたちの日常生活がデジタルの恩恵を受けているように、学校教育もDX（デジタルトランスフォーメーション）を目指して学びの環境整備が進められています。子どもたちは一人一台の端末を活用し、どんなツールを用いて思考するか、作業するかを自分で決めるとともに、画面で可視化された友達の意見や学習成果を参考にしながら自分の得意なやり方で（まさに主体的に）「個別最適な学び」を実現していくようになります。一斉授業という形態や登校を大前提とした学校の当たり前も、問い直す時期にきているのです。

そこで、9月21日（木）の学校運営協議会では、委員の皆さまと全職員でグループ協議をし、学びの場である学校に「集うこと」の意味を話し合い、わたしたち大人の経験や価値観を見つめ直してみました。子どもたちの「学校大好き！」の言葉を手掛かりにして立場を超えてわたしたちにできることを探していきました。記録は学校WEBページに掲載するので、ご一読いただければ幸いです。いつかPTAのみなさまとも同じテーマで対話してみたいです。



学校運営協議会 グループ協議の様子

4年生 箏と十七絃に親しもう！

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

「学校プログラム」 アーティストが学校へ

東本郷小学校に、一足早い芸術の秋がやってきました。

残暑の厳しい令和5年9月20日（水）、和楽団「煌（こう）」のアーティスト3名による演奏会が開かれました。演奏会のテーマは「和楽器」。音楽の時間に学習した日本古謡「さくらさくら」を通して和楽器「箏」に出会った4年生。箏（そう）と十七絃（じゅうしちげん）とピアノの音色に耳を傾け、日本に古くから伝わる伝統楽器の演奏に親しみました。

「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」とは、横浜の子どもたちの創造性を育み、豊かな情操を養うために、学校教育とアーティストをつなぐ様々な活動をする場のことです。中でも、子どもたちがコンサートホールや美術館、劇場へ出向くのではなく、アーティストが学校を訪問してアート体験を直接届ける事業、それが「学校プログラム」です。東本郷小学校では、この取り組みとタイアップして、今回の演奏会が実現しました。



【左】箏（そう）

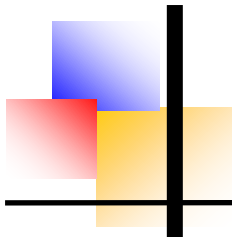
【右】十七絃（じゅうしちげん）



わたしたちもリコーダーで演奏に参加したよ！ 曲名は「さくらさくら」。

4年生の子どもたちの感想より

- 楽器紹介で箏や十七絃は糸を押したり琴柱(ことじ)を動かしたりすることでたくさんの音が出せることを知りました。
- 箏や十七絃は昔のイメージで古い曲だけを演奏すると思っていたけど、激しい感じの「アイドル」や「千本桜」を聴いて、どんな曲でも演奏できるすごい楽器だと思いました。
- 箏と十七絃を弾くときの手の動きの速さにとても驚きました。手を動かすのが速すぎて、指が何本もあるように見えてすごかったです。
- ひとつの楽器でなめらかな音やはじける音が表現できるのがすごかったです。
- 箏や十七絃がとてもいい音で、おことの勉強をしたい感じになりました。



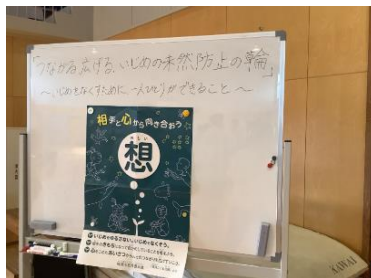
横浜こども会議 2023

テーマ 「つながる、広げる、いじめの未然防止の輪」

～いじめをなくすために、一人ひとりができること～

7月10日(月)に、東鴨居中学校で横浜こども会議中学校ブロック交流会が行われました。この交流会では、東鴨居中学校、鴨居小学校、東本郷小学校の3校の代表者が集まり、テーマに沿って自分たちにどのようなことができるか話し合いました。

その中で、①ピンクシャツデーの取り組みに参加②いじめについての授業を自分たちでやってみようという案が出ました。今後、各学校に持ち帰り、話し合い活動を通して学校全体、ブロック全体で実践していくということになりました。



8月31日(木)の横浜こども会議緑区交流会では、7月の中学校ブロック交流会で話し合われたことを緑区の全小・中学校の代表者が集まった中で発表しました。発表は本校のブロックがトップバッターでしたが、3校の息もぴったり合い、素晴らしい発表をすることができました。また、他の中学校ブロックで話し合われた内容にも真剣に耳を傾け、他の学校の取組にも興味津々でした。いじめの未然防止についての話し合いでは、グループの中で自分たちの意見を交えながら、いじめはなぜ起きるのか、なぜなくなるのか、どうしたらなくなるかを考えることができました。



このこども会議をもとに、東本郷小学校ではさらに話し合いを行い、いじめについて理解を深め、いじめの未然防止の活動を行っていきます。今後の子どもたちの活動に注目していただきたいと思います。

5年2組 伊藤 誠史郎

みんなのいじめに対する意識が伝わってきた。いろんな案を参考にいじめをなくしていきたい。

6年2組 久保田 結月

いじめを防ぐ取組がたくさん紹介された。自分たちももっと工夫して取り組みたいと思った。

6年2組 五十嵐 穂香

たくさんの意見を出し合うことで、やっぱりいじめはダメだと再確認できた。